

# 阿尾漁港(氷見市管理・第1種)



平成26年10月27日撮影

- 漁港の所在地 氷見市阿尾
- 漁港の指定 昭和26年12月13日 農林省告示第447号
- 漁港管理者の指定 昭和39年7月18日 富山県告示第531号
- 沿革

阿尾漁港は、城ヶ崎丘陵と阿尾、藪田境の丘陵の間に挟まれた波静かな入り江にある。阿尾地先沿岸域は、好漁場であり、船溜として古くから利用されていた。入り江の浜地は台網作業場であった。明治40年代に始まる大敷網の諸準備もここで行われた。

昭和9～10年に東防波堤及び南防波堤、物揚場、昭和28年に物揚場が整備され、漁港としての形態が整った。その後、第7～8次整備計画では改修事業により、激浪時にも安心して停泊できるよう防波堤の改良や物揚場の整備を行った。

第9次整備計画では、氷見漁港とともに認定を受けた「氷見地区ふれあい漁港漁村整備計画」に基づき、漁港漁村総合整備事業により、漁港施設用地とともに漁港環境用地を確保する東護岸の整備、海岸環境整備事業で整備された海岸緑地公園と集落を結ぶ「海への誘いの道（漁業集落道）」の整備、阿尾城跡を中心とした緑地広場の整備を行った。